



上毛電気鉄道 西桐生駅

昭和3年(1928)の上毛電気鉄道中央前橋、西桐生間の開業時に建設された木造平屋建てで、中央改札口の屋根が2段階の傾斜がかかる腰折屋根(マンサード屋根) その東側に寄棟屋根の待合室、北側に切妻屋根の事務所、宿直室、休憩室が配置される。外壁は褐色のモルタル塗り仕上げ、内部は漆喰塗りで腰部にはタイルが張りめぐらされている。腰折屋根には周囲を白く塗った飾りガラスがはめられた換気口が設けられ、その中心に垂直にモルタルのレリーフがみられ、窓周りにも装飾が施された換気口が付けられている。

駅舎主屋西側のプラットフォームに立つ上屋も開業時のもので、東西27.4m、南北6.4mであり、5組の独立柱とその上部のトラスによって小屋を支え柱とトラスはボルトで固定されている。この駅舎とプラットフォームは平成17年12月26日登録有形文化財に登録認定されている。

西桐生駅周辺には同時期の洋風住宅や和洋折衷住宅が数多く、特に北方にあたる宮本町には文化住宅群が形成されていた。駅舎は文化住宅群の玄関口として、また、桐生織物の近代化を象徴するものとして、意匠を凝らして建築されたことが想起される。

昭和初期のモダンな洋風建造物として貴重であり、市内に点在する近代化遺産を代表するものとして、重要な風景である。



所在地 桐生市宮前町2-1-33
駅長 田村 耕作